

授業作り	重点	タブレット端末を有効活用し、基礎・基本の定着に取り組む。 思考力・判断力・表現力等を伸ばす授業展開の工夫改善を行う。
環境作り		教職員によるきめ細かい見取りを行い、生徒の健全育成を推進する。 日常的な協働活動を通して、自分を磨き、仲間とともに伸びる善意の集団を育成する。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国語	・第3学年、第2学年ともに、「知識・技能」において、漢字や語句などの既習事項を定着させるとともに、状況に応じて適切に活用する力が必要である。	・漢字や文法の小テスト、暗唱テストを継続して行うとともに、読書活動や、情報を収集し、整理・比較する活動を設定し、文章から読み取った内容を精査して自分の言葉でまとめる練習を積み重ねていく。都立高校入試を見据え、200字作文の練習にも定期的に取り組ませていく。	・小テストの定期的な実施 ・小作文 ・フラッシュカード ・デジタルドリルを活用した、漢字・語句・文法の反復練習
数学	・3学年は「知識・技能」において、1次関数やデータの分析において正答率が低い傾向がある。 ・2学年は「思考・判断・表現」において、関数のグラフを考え推察する問題において正答率が低い傾向がある。	・3学年は、デジタルドリルなどICT機器を活用した学習を行うと共に、既習事項の定着を目的とした小テストや用語の確認を反復して取り組ませる。 ・2学年は、計算問題以外にもグラフの作成やデジタル教材を用いた授業を行い、視覚的にグラフを捉える機会を増やす。	・継続的な小テストの実施 ・デジタルドリルを活用した復習 ・グループワークでの協働学習 ・追加プリントによる反復練習
理科	・第3学年 基礎、応用ともに全国平均を下回る結果となった。特に基礎の得点に課題が見られる。 ・第2学年 基礎、応用ともに全国平均を上回ったものの応用分野においては全国平均点とさほど乖離がない。	・第3学年 実験結果を正しく記録し正しく理解するとともに、基本的な用語の習得に取り組ませる。また、応用を苦手としている生徒への指導を工夫して行う。 ・第2学年 自分の言葉による理解を図り、意見を交換し合い発表することで深い学びに結び付けていく。	・第3学年 日々の授業での対話から既習分野の振り返りを行う。 ・定期考査とは別の理科用語テストを繰り返し行い基礎基本の定着を図る。 ・デジタルドリルなどの短答式の学習を牛一タイム（朝の10分間自習）などを活用し継続していく。 ・第2学年 ・少人数グループによる活動

			場面を増やし、場面に応じた発表活動を行っていく。 ・デジタルドリルなどの短答式の学習を牛一タイム（朝の10分間自習）などを活用し継続していく。
社会	・第2学年は、基礎学力の定着が不十分で、社会への苦手意識がある生徒が多い。また、思考力・判断力・表現力を問う問題を不得意とする生徒が多くみられる。活動型の授業は積極的に取り組むことができる。 ・第3学年は、基礎学力は徐々に身に付いてきたが、思考力・判断力・表現力を問う問題や記述問題は苦手なようである。	・デジタルドリルやワークを活用した授業や家庭学習を通じて、学力の定着を目指す。 ・活動型授業のなかで、調査→思考→発表というプロセスの中で基礎的知識の定着がみられたので、今年度も継続する。 ・講義型授業の中で、基礎事項を身に付けた上で、資料から必要な情報を読み取り、歴史的事象や自らの考えをまとめて記述する時間を設けることで、思考力・判断力・表現力を高めていく。	・基本事項の徹底 ・デジタルドリルの活用 ・ワークシートの工夫 ・机間指導の充実 ・活動型授業を行う中での発表活動
英語	・3学年は、全体的に区や国の平均より回っているが、A層とD層との差が大きいことが課題である。 ・2学年も、区や国平均は上回っているが、「応用」または「思考力・判断力・表現力」に課題がある。基礎の定着はもちろんのこと、「思考力・判断力・表現力」を意識した授業作りをしていきたい。	・3学年は、受験に対応できるように、「読解力」と「スピーキング力」の向上を目標にしていきたい。また、基礎基本の定着のために「単元テスト」なども行っていく。 ・2年生は、「思考力・判断力・表現力」の力の向上を目標に、場面や状況に応じた表現ができるようなアクティビティを意識して取り入れていく。また、基礎基本の定着のために「単元テスト」なども行っていく。	3年生は、帯活動にリーディング教材を取り入れ、「読解力」をつけていくと同時に、「スピーキング力」をつけるために、帯活動のペアワークの充実や、学期に1～2回の「ALTとのコミュニケーションテスト」を実施する。 ・2年生は、帯活動で「基本的な表現」を繰り返し練習した上で、実際に「場面や状況に応じた表現ができるようなアクティビティ」を多く取り入れるとともに、「スピーキング力」をつけるために、「ALTとのコミュニケーションテスト」を実施する。

■ 効果的なデジタルドリルの活用について【チェックリスト】

【区教委提出用・様式2】

- ☑ 学校は年度当初にデジタルドリルの活用について保護者及び生徒へ説明をしている。
- ☑ 学校は活用の際して、IDやパスワードについて保護者及び生徒へ説明をしている。
- ☑ 生徒及び教員がデジタルドリルの内容や機能について概ね理解している。
- ☑ 学校は生徒が学校生活においてデジタルドリルが活用できるよう促している。
- ☑ 学校は家庭におけるデジタルドリルの活用について具体的に指導している。
- ☑ 学校は全ての学年で定期的に様々な場面でデジタルドリルの課題等を生徒に与えている。
- ☑ 担任等がデジタルドリルを活用し、生徒一人ひとりの傾向を把握し、適した課題や指導を行っている。

■ 自校における効果的な学力定着度調査を活用した事後指導について

- ・結果帳票の返却時に、分析した各学年の傾向を説明し、ポイント抑えて指導している。
- ・学力定着度調査を詳細に分析し、各教科の授業では、本校生徒の得手は伸ばし、不得手を補うような学習指導の改善を意識している。
- ・朝時間を活用し、個別に連携したデジタルドリルに取り組ませている。
- ・本校は英語を得意とする生徒が多いものの、理科・社会については得点が伸び悩む生徒が多い傾向にある。よって、学力調査と連携したデジタルコンテンツを活用し、苦手分野における基礎基本の定着に重きを置いている。

■ 自校における効果的なデジタルドリルの活用について（事前・事後指導を含む）

- ・5教科の授業の冒頭において、5分間程度のデジタルドリルタイムを設け、前時の復習を行い、既習事項の定着状況を把握している。
- ・朝の牛一タイムにおいて、定期的にデジタルドリルタイムを設定している。
- ・定期考査前の、基礎基本事項の確認として活用している。
- ・新宿区学力調査の結果と連携したデジタルコンテンツを春季休業の課題とした。
- ・夏季休業中等に1学期の振り返り活動としてデジタルドリル活用した。

■ HP掲載／内容更新チェックリスト

区教委への様式提出締切日	更新日	更新確認者職名・氏名
例	5月10日（金）	主幹教諭・新宿太郎
第1回 5月13日（月）締切	5月29日（水）	副校長・西雄一
第2回 11月11日（月）締切	11月26日（火）	副校長・西雄一
第3回 3月10日（月）締切		